

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400046		
法人名	有限会社スマイルケア		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	玉野市玉原2丁目17-21		
自己評価作成日	H24. 3. 7	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心が躍る誇りある暮らし」という理念に添って利用者にとくさんの笑顔や個々を尊重できる生き生きとした生活を支援しています。行事には職員手作りの会やボランティアの受け入れをし、涙や笑いの絶えないあたたかな雰囲気作りをしています。
さくらの咲く頃には利用者・職員・家族・地域の皆さんと共に一丸となって祭りを盛り上げています。その時その時を楽しみゆとりある生活を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス停やショッピングセンター・団地が近く、目の前に桜の咲く公園があり、ゲートボールを楽しむ姿が見受けられます。事業所は5階建ての2・3階部分にあり、開設以来5年を経過し、ボランティアを数多く受け入れ、家族の来所も多く、各種行事など地域との交流にも熱心に取り組んでいます。管理者(看護師)が自宅から一緒に出動している犬(8ヶ月)が利用者や職員を癒してくれています。利用者同士のコミュニケーションで食事が増進しているなどほほえましい光景も見られ、絵手紙や折り紙などの作品を室内に飾り、それぞれが楽しみや役割をもてる支援が行われています。重度化してきており、看取りなども視野に入れ、職員がそれぞれに目標を持ち一丸となって頑張っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は手の届くところ、トイレにも貼りだしておりいつでも確認できるようにしている。スタッフは行事等の目標にも理念を掲げ達成できるようにしている。	各所に格言や理念などが貼られており、日々の生活や行事に「心が躍る」という理念を活かすように努めています。職員各々が「笑顔・技術の向上・ゆとり・絆・健康・コミュニケーション・洗濯と掃除を頑張る」など目標を掲げ取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも入っておりゴミ置き場の掃除や、草抜き、お祭りなどに参加している。外出すれば気軽に声を掛けあわせている。	町内会に入っており、公園の清掃や散歩・買物時の挨拶、行事でのふれあい、幼稚園児との交流(新聞掲載)の他、各種ボランティア(絵手紙・尺八・三味線・オカリナ・マジック・フラダンス)など多彩な催しでつながっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動やヘルパー2級の実習の受け入れを行っている。地域の研修にも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を行っており現状報告や取り組み課題などによる意見交換を行いサービスの向上に活かしている	家族・民生委員・地域包括などの参加を得て、2ヶ月に一度開催し、ケアに活かしています。玉野市長による出張講座「教育(今日行く)・教養(今日用事)・水戸黄門健康法(食べる・歩く・笑う)」は大好評だったそうです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に2回グループホーム連絡協議会はありその際には市の担当者より情報を受けている。日常的にも電話やFAXなどで情報を交換している。	グループホーム連絡協議会・運営推進会議をはじめ、介護相談員の受け入れ、日常的な電話やFAXでのやり取りなどを通じて積極的に協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修に行き全体会議での勉強や報告を受け理解を深めている。玄関の施錠はしているが、それは家族の安心となっている。ベッド柵については家族の了承を得ている。	道路に面しており、玄関は自動ドアで外からは入れるが中からは出にくい状況になっています(家族了解)。言葉使いや態度などを含め、折に触れて身体拘束への理解を深め、安心安全のケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行き学習の機会を得ている。利用者さんの状況報告もあり、皆で話合える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修もあり学ぶ機会もあった。今実際に利用している利用者の方もあり、必要性のある方がいれば支援できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明している。疑問点があれば納得できるように十分説明している。退居に至る場合は家族と共に話し合いをして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には温かい雰囲気づくりをしており気軽に何でも話せるような機会を設けている。意見や要望があればすぐにスタッフ伝えるようにし、来所ができない時には電話や手紙・ブログ等を見てもらっている。	面会時・電話・手紙・メール・ブログなどで家族との対話を心がけ、また利用者の言葉にならない思いを汲み取り、意向を把握するようにしています。連絡ノートで情報を共有し、意見を反映させるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりスタッフとは何でも言える関係であり意見や提案があれば全体会議で取りあげて話し合い反映させている。	管理者は信頼されており、気軽に意見を述べたり何でも相談できる雰囲気があり、反映に努めています。会議には代表者の参加もあり、話し合いが持たれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場は楽しく働いているが、職場環境・条件などもっと努めてほしい。研修面でも配慮してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受け入れるように取りくんでいる。研修報告は全体会議で発表し皆で学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に行き交流を深めている。相互で研修会を行い交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面接し、しっかりアセスメントを行っている。不安や困っている事も細かく聞き関係づくりを深め安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること要望等はしっかり聞きより深い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを見つけたのようにしたらサービスにつなげられるか検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれにより、色々と教えてもらい、できるところはしてもらいお互い様の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より本人の様子や状態を電話や手紙で報告している。家族の話聞きながら支援に結びつけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	祭りに参加したり、知人が尋ねてきたりするなど交流ができるように心がけている。	各種行事・ボランティア(知り合い)や買物・散歩時の出会い、時に友人・知人の来所、家族の面会や外出同行、電話や手紙の支援など馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居室を訪問して楽しく会話している。お茶や食事の時には楽しい場面になるよう個々の対応にも支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり他の施設に移ったりした場合は看護・介護添書を渡し情報を提供している。退居後の生活についても病院や家族との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でしっかり声かけをさせてもらい、言葉や表情からも把握できるよう努めている。家族からも話を聞き情報を得ている。	日々関わる中での言葉や生活の様子・好み、また家族からの聞き取り、スタッフ間の気付きなど、情報を得ながら思いや意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にはしっかり聞き、家族からも生活歴の情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録をしっかり書くように努めている。本人が言った言葉など記入したり、スタッフがどのように対応したかなど。業務日誌にも記入し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよいケアを築くため本人・家族直接かわるスタッフから話を聞き必要とあればカンファレンスを開きよりよい状態を作っている。	本人・家族の意向、主治医の意見、スタッフの話、連絡ノートなどを活用し、変化に応じてモニタリングやカンファレンスを行い、現状に即した介護計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人が言った言葉を直接書き込みスタッフがどう対応したのかなど記録している。ケアプラン表もすぐ見れるようにしており見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の面やその他本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行ったり、公園で散歩したりするなど楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族が同行できない場合や緊急時などは職員が代行し適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれ従来のかかりつけ医の訪問診療や家族対応での受診となっていますが、緊急時や必要時には職員が同行しています。看護師(管理者)が配置されており、主治医と連携をとりながら支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されている。職員は日常の関わりの中で体調や表情の変化を細かく観察し変化の気づきがあればすぐに看護師に連絡報告し、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子や状況など細かな情報を提供するようにしている。職員も見舞い状況を把握し家族とも密に連絡をとり早く退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況変化に応じて家族との話し合いに取り組んでいる。入居時には家族にターミナルケアについて説明を行っている。終末期に於いては今後の課題として取り組まなければいけない。	開所以来5年を経過し、重度化が進み看取りの対象者が出現し、家族・主治医を交えてカンファレンスを持ったようですが(現在は好転している)、今後に向けて、真剣に取り組むべき課題だと考えています。	本人・家族の希望を段階的に確認し、納得した最期を迎えられるよう、医療との連携を図りながら、知識や技術を磨き、いつでも対応できるように、心構えや準備を整えていかれることを願っています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り周知の徹底を図っている。全体会議などでも議題にして職員全員が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を利用者・家族・地域の方々の協力も得実際に行っている。防災にも力を入れている。今後は災害時にも訓練を行えればと考えている。	運営推進会議で呼びかけ、家族・民生委員・近隣の協力を得て訓練を実施しています。重度化が進み、車椅子への対応についても避難方法の検討を行っています。	あらゆる災害を想定して、近隣・応援団を巻き込んで訓練や話し合いを進めるとともに、防災グッズ等についても備えを万全にされることを提案したいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時にはさりげないやさしい言葉かけを行い一人一人の思いをなすとげるように対応している。	一人ひとりに配慮して、その人らしい個性が活かせるような言葉掛けや対応がなされています。全体の雰囲気や利用者の穏やかな表情からも読み取ることが出来ます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをしている。言葉での意思表示が困難な時には表情やしぐさで読み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるがその時の気持ちや体調にあわせている。一人一人のペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はなるべく自分で選んで着てもらっている。カットや外出するときにはこちらからアドバイスをし満足できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が美味しく食べれるように楽しい雰囲気作りをしている。誕生日には利用者の好きな献立にし買い物などにも同行している職員と利用者は一緒にものを食べている	利用者の好みを活かし、買物や調理を一緒にしています。出張回転寿司や行事食などの特別な料理のほか、家庭的な三度三度の食事は彩りもよく、職員も交えてテーブルを囲み、なごやかな楽しい時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握している。糖尿や肥満の人には薄味にしたり、量を加減したりするなど支援している。個々に合わせたながらやっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、介助が必要な人など本人の状態に合わせたケアをしている。夕食後には必ず行っているが毎食後にはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記録している。自分で行けない人には2～3時間おきに誘導している。またしぐさや行動により誘導をし失敗を減らすように支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄を心がけています。紙パンツから布パンツに移行した利用者もあり(5人)、居室にポータブルを置くなど自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヨーグルトや毎朝冷たい水を飲むなど、運動をすることも忘れずにやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後からにしているが、失敗があった時には臨機応変に対応している。湯温等の好みや順番などにも配慮し、利用者の気持ちに合わせて行っている。	希望や失禁時に合わせ、毎日対応できるようにしており、順番や湯温などに配慮し、入浴時は1対1で対話しながらゆったりと過ごせるように援助しています。機械浴もよく利用するようになったとの事です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせてゆっくり休息できるようにしているが、日中のリズムを乱さない程度に考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容については職員がわかるようにファイルしている。誤薬のないように職員同士で確認し最後まで飲めたかどうかも確認することになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を見つけ又、趣味などを生かし力を発揮してもらっている。頼み事をしてもらった時には感謝の言葉をそえるのを忘れずにやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも外出できるように支援しているが段々と出かける機会が減ってきている。散歩や買い物などに希望にそえられるように努力していきたい。	高齢化・重度化で遠出ができにくくなってきていますが、買物やすぐそばの公園への散歩・行事での外出など少しでも外気浴ができるように支援しています。	車椅子利用者が増えてきているようですが、「こころが踊る」ケアを目指して、家族やボランティアの協力を得ながら、利用者の希望が叶うように支援されることを期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理は行っていないが、少額のお金をもっている人もいます。近くのスーパーに買物に行った時には自分で支払いできるような援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけられるように支援している。手紙の文章とかも一緒に考えたり、出すことにも援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、室温調節にも配慮をしている。台所のおいしさや音により生活感を感じてもらえるようにしている。ホールで皆の顔が見えるように配置し安心感を持てるようにしている。	リビングは明るく落ち着きがあり、テーブルに土筆の鉢植えや菜の花が置かれ、家族(幼稚園の先生)の演出で大きな桜の木が壁に貼られ、季節を感じることができます。皆が顔を合わせられるように家具の配置を工夫し、居心地の良い空間をつくり出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りのソファや気の合った者同士で座れるように机や椅子の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や布団やテレビなどを持ってきてもらい居心地よく過ごせるようにしている。亡くなったご主人の写真を飾っている人もいます。	室内は広く、布団の入るような大きな収納場所があり、それぞれに好みのものを持ち込み、思い思いに配置し(収集癖のある人も自由に)、個性豊かに居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、滑らないようにマットを配置したりしている。		